

阿連小学校閉校が及ぼす地域住民への影響

松岡 信吾

1. はじめに

本報告書は、2016年春に廃校した旧阿連小学校（以下阿連小）が、廃校後約1年が経過した現在、当該地域にどのような影響が生じたのかについて、関係者へのヒアリングから明らかにしたものである。調査にあたり、元阿連小学校校長や、地域住民、児童や保護者など地域の多様なステークホルダーにインタビューを行った。まず、阿連地区の統廃合の概要について述べてから、ステークホルダーの立場別にヒアリング内容を整理し、最後に考察を述べていきたい。

2. 阿連地区、阿連小学校の概要

はじめに、阿連地区について述べる。2018年2月の人口は239人（男118人、女121人）である（対馬市 2018）。高齢化率（総人口に対する65歳以上人口の割合）は、40～50%とされている。内閣府（2017）の『平成29年度高齢社会白書』によると、日本全体の高齢化率の平均は27.3%なので、阿連地区の高齢化が進んでいることがわかる。おもな産業は農業、漁業、林業である。かつては、炭鉱もあったという。また、歴史ある土地でもあり、市指定無形文化財のオヒデリ祭、国選択文化財の盆踊りなどがある。

阿連地区にあった阿連小学校は、2016年春に、地域の過疎化による児童の減少により廃校となり、金田小学校と統合された。阿連地区から金田小学校までの距離は、スクールバスで約20分程かかるところにある（落合 2017: 44）。

3. 金田小学校校長との対話

阿連小学校にかつて勤務されており、現在は金田小学校の校長を務めている岡崎校長のもとを訪れ、ヒアリングを行なった。阿連小学校の廃校と統合を経験した校長が、統廃合から一年経過した現在の地域や子ども達、保護者などの変化について語ってくださった。ヒアリング内容は大きく3点に分けられる。1点目は廃校による阿連地区への影響、2点目は阿連地区出身の子ども達の変化、3点目は保護者への影響である。以下に、順番に述べていきたい。

まず、廃校による阿連地区への影響について述べていく。岡崎校長によると、統廃合の影響によって子どもたちがスクールバスで地区外の学校へ通学することになったことで、朝早くから夕方まで地域の子どもの姿を目にすることがなくなり、子どもたちと関わる機会が減ったために、阿連地区のご高齢の方々は、昔に比べ元気が無くなってしまったという。加えて、阿連地区は比較的規模が小さい学校であったこともあり、運動会や学習発表会などの学校行事は、地域全体のイベントとして行なっていたそうだ。保護者は合わせ

て 20 人ほどしかいなかったが、地区全体で約 100 人が集まる大きなイベントとなっていたという。小学校が無くなってしまったことによって、このような地域のイベントが無くなってしまったこと、その結果日々の話題なども無くなり、地域内での関わりが薄くなってきてしまっている。

また、小学校の総合科の授業において、地域学習が行われる際に地域の方々と子ども達の交流があったそうだ。具体的には、しめ縄づくりを地域の方に教えてもらって一緒につくったり、スイカや野菜を、地域の方のお話を聞きながら栽培したりなど、地域の方々が子ども達のことを気にかけていて、非常に協力的であったという。また、社会科の授業においても、昔の道具について学習する際に、そういった道具が残っている阿連地区では、外に行けば昔の道具に関する学習ができ、住民の方に当時のお話を聞くこともできた。また、あるときにはそば作りを一緒に行なったり、サツマイモが原料である対馬の郷土料理のせんだんご作りを見させてもらったりもしたそうだ。

岡崎校長の話によると、地域の方々は、「子ども達から元気をもらう。子どもといたら元気がでる」とよく言っていたそうだ。しかし、金田小学校と統合したことにより、それらの繋がりが無くなってしまい、地区全体として活気が無くなってしまったことが窺えた。

次に、阿連地区出身の子ども達への影響について述べていく。先ほども述べたように、岡崎校長は、通学の手段がスクールバスになったことにより、子どもが外に出なくなったのではないかとおっしゃっていた。休みの日に何をしているか子ども達に聞くと、ゲームしていると答えるという。また、金田小学校に元々いた子ども達といる時と、阿連小学校出身の子ども達同士でいる時とでは違った表情をみせるという。スクールバスで帰宅しているため、バスを待っている際に話しかけると人懐っこい表情を見せるが、従来の金田小学校の学区の子ども達と話す時は少し遠慮があり、自分たちを出せていないまま一年が過ぎてしまった感じがあったという。さらに、子ども達がスクールバスで登校していることが辛いのではないのかということもおっしゃっていた。

最後に、保護者への影響を述べたい。金田小学校は、阿連地区のほか多数の地区から子どもたちが集まっているそうだ。そのことが影響し、PTA の参加率は、阿連小学校の時は 100% だったそうだが、金田小学校では中心の方のみの参加にとどまり、保護者の方々の学校に関する関心も希薄化しているとおっしゃっていた。

これらのヒアリングから、地区に小学校がなくなってしまうことが子供たち同士の関係はもちろん、大人同士の関係、また子どもと大人の関係にも影響を及ぼしていると感じた。

4. 地域の方々へのヒアリングを通して

次に、阿連地区に住む方々にヒアリングを行なった。阿連地区区長である上野吉英氏、教員の手束さん、畑作業をしていた上野さんからのヒアリング内容をまとめる。

区長の上野さんによれば、今はもう学校に誰もいないそうだ。学校があった時は朝にラジオ体操が行われ、地域の方々の交流があったという。上野さんは昔、PTA 会長をしていたそうだが、忙しくて手が回らず、地域の学校の授業などで教えることなどはなかったそうだ。

かつて阿連小学校の学校支援員であった手束順子さんは、小学校が廃校になってしまっ

たことを、やはり寂しいとおっしゃっていた。かつては、学校の生活科や総合科の授業を通して、子ども達と地域の方々の交流があったという。商店をまわったり、いもさし（サツマイモ植え）を教えてもらったりしていたそうだ。また、地域のおばあちゃんが饅頭を作って一緒に食べる「饅頭会食」というものが年に2～3回ほどあったそうだ。阿連地区は、地域に小学校が一つだけだったため、まとまりがあったという。運動会などの学校行事は地区全体として盛り上げていたそうだ。畑で農作業をしていた、上野かずこさんも、同じことをおっしゃっていた。運動会では、子供が卒業した後も孫がいたりなど、行ける時は行っていたそうだ。

小学校の授業や学校行事などにより、かつては子どもと地域の方々との交流が盛んにおこなわれていたことが分かった。

5. 保護者、学生目線から

ここまで、旧阿連小学校の岡崎校長、そして地域の人達のヒアリング内容をまとめてきた。では、保護者や学生はどのように感じているのだろうか。今回、実際に小学生のお子さんがいらっしゃる手束さんと、現在大学1年生で、阿連小出身である山崎花佳さんにお話を伺った。以下ヒアリング内容をまとめていく。

手束さんは、前述の通り小学校が地域の交流の中心であることをおっしゃっていた。学校の行事や授業において年配者と子ども達の交流が生まれ、運動会などの学校行事は地区総出で行われていたという。そのようなことが無くなってしまったことで、地域のまとまりが無くなってしまったとおっしゃっていた。金田小学校においても、地域の学習はあるが、阿連地区のことは学ばないそうだ。子ども達も、スクールバス登校になったことで、外で遊ばなくなってしまったそうだ。

その一方で、親の立場では小学校が統合されてよかった面もあるという。児童数が少ないことから、4世帯しかおらず、行事をするにしても人手が足りず、一つの世帯に負担がかかってしまうそうだ。

阿連小出身で、現在大学1年生である山崎花佳さんも、小学校が無くなってしまったことを寂しいとおっしゃっていた。小学生のときには、やはり生活科や総合科の授業において、地域のことを調べる活動があったそうだ。その活動を通して、地域の方々との交流があり、地域の方々も喜んでくれていたという。また、運動会などの学校行事も、地域の方々が盛り上げてくれるおかげで楽しかったとおっしゃっていた。

学生の視点からも、やはり小学校がなくなって寂しいということと、保護者目線では統合することによってのメリットもあることを知ることができた。

6. 考察

今回、様々な立場にある地域の方々にお話を伺うことができたが、どの立場の方においても、地域の小学校が無くなってしまったことに対し、「寂しい」という思いがあることがわかった。そして、小学校が、子ども達のための場であるのみならず、地域の文化の中心であるという印象を受けた。学校行事や、学校の授業などを通し、子ども達、そして地域

の方々同士の交流が生まれる場でもあり、その文化活動や、交流の場の中心であった小学校が地区から無くなってしまふことの影響の大きさを実感した。

しかし、その一方で、区長の上野さんや、保護者の立場である手塚さんもおっしゃっていたように、保護者の立場では児童数が少ないことから、一つ一つの世帯に PTA の業務や学校行事の準備などの面で負担がかかってしまうこともわかった。こういった現状があり、地域の方々の廃校反対という思いがあるものの、廃校にせざるをえない環境ができてしまうのではないかと考えた。

このような現状があるが、私は地域の方々のお話を聞く限りでは、やはり前述の通り地区に小学校があるということが、子ども達だけでなく地区全体に大きな影響を及ぼすという印象を受けた。なので、小学校は地区にとって必要であると考え。小学校を残していくために重要であるのは、地区に人を残す、あるいは呼び込むこと、そして地区の方々から地区に小学校がなくなることによって及ぼされる影響について理解し、協力し合う環境を作り上げることなのではないだろうか。そのために、地区の方々、子どもたちが「つながる」ことができる機会があればよいと考えた。

7. まとめ

今回のヒアリング調査は、小学校の統廃合における地域住民の方々への影響についてのものであったが、都会出身で、大規模な小学校に通っていた私にとって、小学校が地区に及ぼす影響についてそこまで大きなものがあると考えたことがなかった。もちろん、都市部においても小学校が文化や交流の中心であるということはいえると思うが、阿連地区のような、人口も少なく少子高齢化がより進んだ地区においては、人と人、そして文化を繋ぐ役割として小学校が大きく関与していることを、様々なステークホルダーの方々からのヒアリングから知ることができた。

しかし、だからと言って残した方がいいと一概に言えるものでもなく、少子高齢化社会であるが故に、世帯数の少なさから生じる一家庭の学校行事等の負担が大きくなってしまふことなどもヒアリングから分かり、統廃合問題の難しさも感じられた。

今回、私自身、対馬を訪れるのは初めてであった。また、対馬のことは学校の授業で学んだ程度のことしか分かっていなかった。しかし、実際に対馬を訪れ、対馬の自然の豊かさや地域の人々の優しさ、伝統文化の素晴らしさなど、様々な魅力を感じ、色々なことに気づかされる機会となった。私は生まれてからずっと都市部で生活しており、対馬のような地域を訪れる機会はそこまでなかった。しかし、そういった学生だからこそ気づける事があると感じ、また気づく事で自身の成長にも繋がると感じる事ができた。

【参考文献】

内閣府, 2017, 『平成 29 年度高齢社会白書』.

落合志保, 2017, 「阿連小学校閉校による児童・地域住民への影響: 伝統文化の視点から」

『立教大学 ESD 研究所と長崎県対馬市との ESD 研究連携に関する報告書(2016 年度)』

立教大学 ESD 研究所, 44-48.

対島市，2018，「人口」，対馬市オフィシャルホームページ（2018年3月14日取得
<http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/web/updata/jinko43002.pdf>）.

（まつおか・しんご 立教大学社会学部現代文化学科3年 阿部治ゼミ）